

力強い宗谷の1次産業推進プロジェクト

【推進エリア】宗谷地域

【主な実施主体】国・道・市町村・民間

目的

宗谷地域の基幹産業である酪農業や水産業では、人口減少や高齢化の進行などにより担い手が不足するとともに、生産性向上に向けた取組や経営継続に必要な投資が十分に進んでいないこと、また、水産資源の減少などが課題となっています。

さらに、生産資材の高騰など経営環境の悪化に伴う離農の進行や、2023年のALPS処理水※の海洋放出に伴う一部の国・地域の輸入規制強化の影響などが懸念される中、地域の特色を活かした強靭で持続可能な農林水産業の振興に取り組む必要があります。

こうしたことから、農業については、酪農を中心とした生乳生産維持・拡大のため、草地整備や牛舎等の施設整備・機械導入の推進、営農支援組織※の充実による生産性の高い酪農経営の確立を図ります。

水産業については、海域の特性に応じた栽培漁業※を推進することにより、生産の維持安定を図るとともに、グローバルリスク※に対応した主力品目の販路開拓や国内消費の拡大に取り組みます。

また、林業については、トドマツ等の人工林が利用期を迎えており、これらの森林資源の循環利用※に向け、ICT※等の先進技術の活用による森林施業※や原木の生産から流通などの効率化・省力化、需要に応じた高度な木材生産を可能とする「スマート林業※」を確立し、低コスト化や木材利用の推進等を図ります。

基幹である一次産業を将来にわたって守り、育てるため、宗谷の酪農や漁業の魅力を広く道内外に発信し、担い手の確保を図るとともに、良質な地域食材を活かした商品開発や販路拡大への支援、食関連産業に携わる人材育成の取組などを通じて、一次産業の基盤強化を目指します。

施策展開

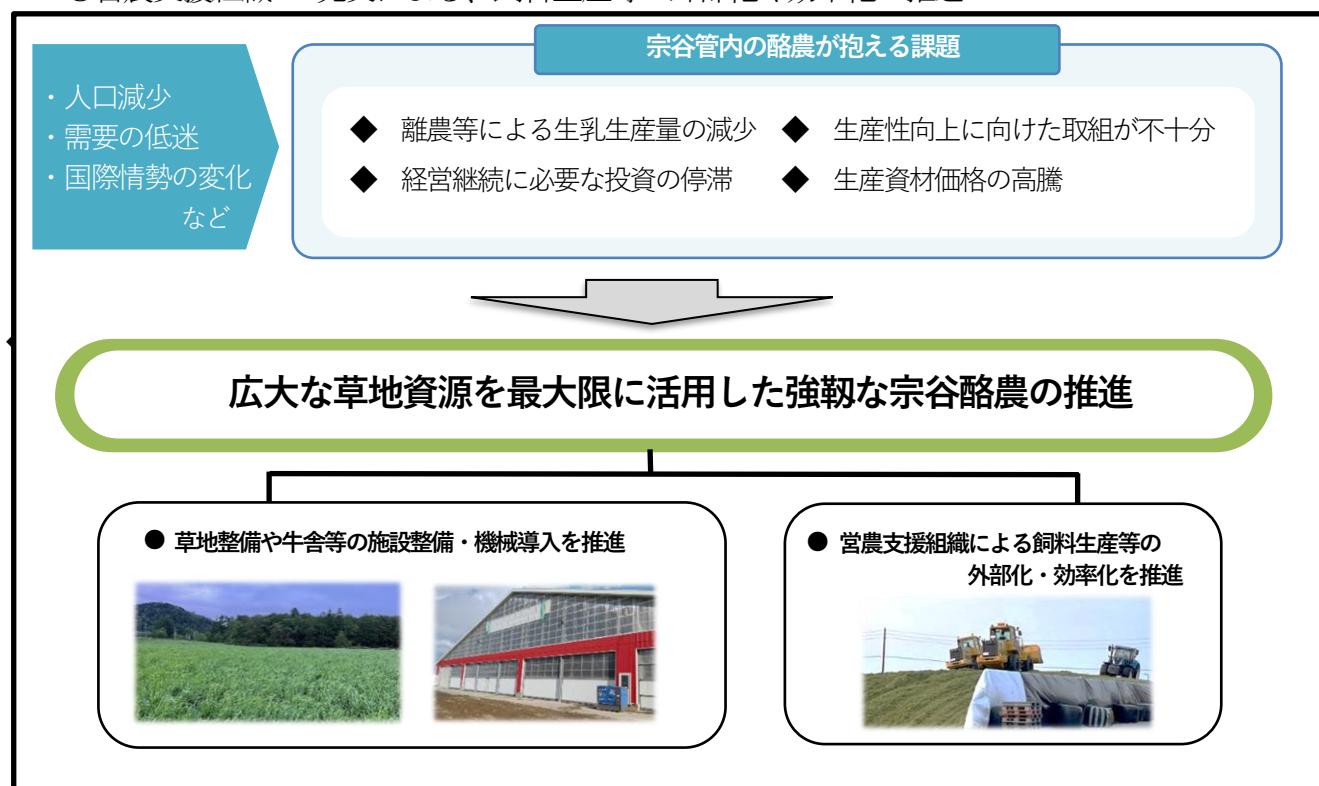
- 【施策】
- 広大な草地資源を活かした強靭な宗谷酪農の推進
 - 海域の特性に応じた持続可能な栽培漁業の推進
 - 地域の特性に応じた森林資源の循環利用の推進
 - 基幹産業を支える担い手の確保・育成
 - 宗谷産農水産物の付加価値向上や消費拡大の推進

〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI※）〉

○農業產出額	4,518千万円（H28～R4平均）	→ 4,518千万円以上（R11）
○沿岸漁業に占める栽培漁業生産量の割合	87%（R4）	→ 88%（R11）
○伐採材積	379千m ³ （H30～R4計）	→ 520千m ³ （R7～R11計）
○新規就農者数	9人（R元～R5平均）	→ 57人（R7～R11累計）
○新規漁業就業者数	40人（R元～R5平均）	→ 180人（R7～R11累計）
○取組を通じた百貨店等との新規等取引件数	25件（R5）	→ 37件（R11）

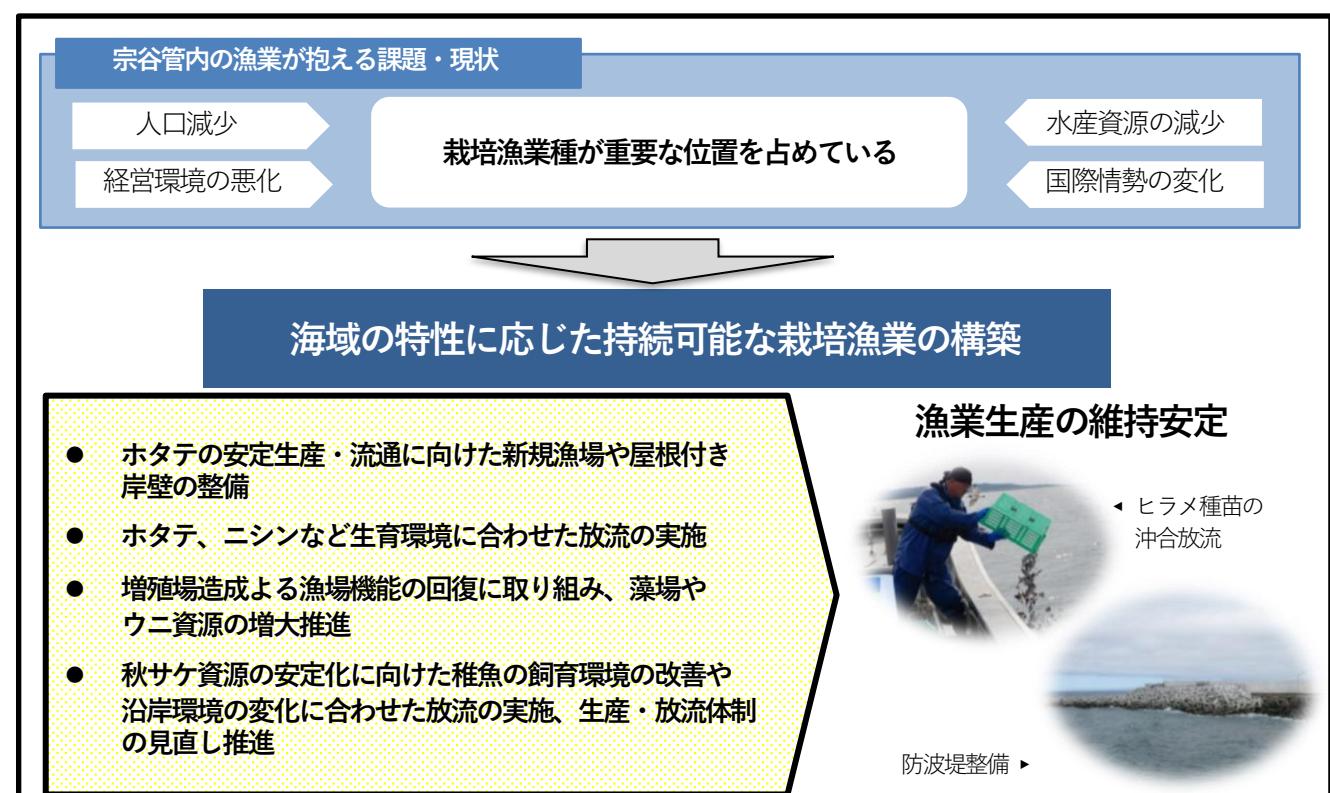
<施策毎の主な取組方向>

- 広大な草地資源を活かした強靭な宗谷酪農の推進
 - 草地整備や牛舎等の施設整備・機械導入の推進
 - 営農支援組織※の充実による、飼料生産等の外部化や効率化の推進



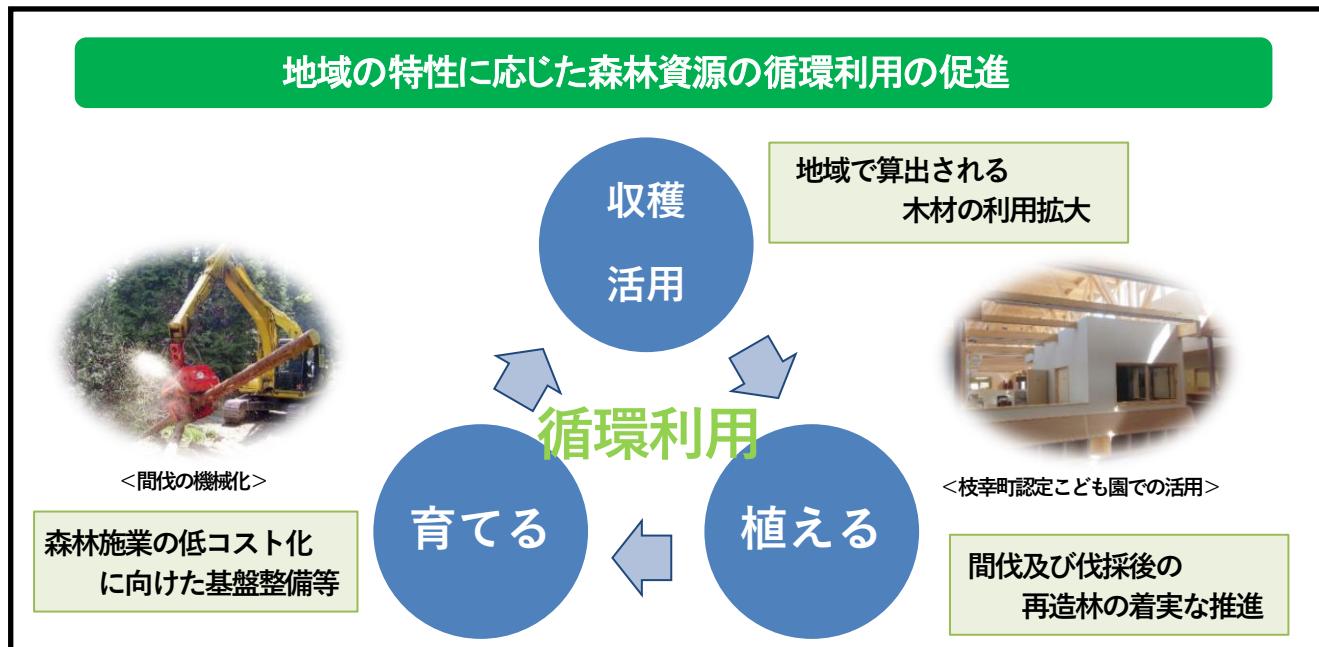
■ 海域の特性に応じた持続可能な栽培漁業※の推進

- ホタテ・ニシンなど海域の特性に応じた種苗放流※の実施
- 漁場機能回復の取組による藻場※やウニ資源増大の推進
- 秋サケの資源安定化のための、稚魚の生産・放流体制の見直し



■ 地域の特性に応じた森林資源の循環利用※の推進

- 森林施業※の低コスト化に向けた基盤整備等
- 間伐及び伐採後の再造林の着実な推進
- 地域で産出される木材の利用拡大



■ 基幹産業を支える担い手の確保・育成

- 多様な担い手の受入促進と育成システムの整備
- 女性や高齢者が活躍できる環境づくりの推進
- 新規漁業就業者の確保対策の推進
- 就業環境の改善や多様な研修の実施などによる森林づくり

基幹産業を支える担い手の確保・育成に向けた課題と対応方向

酪 農

- 新規就農者等の確保
- 新規就農者・農業後継者等の育成

- ▶ 道内外農業系大学でのプロモーションの実施
- ▶ 若手農業者の研修機会等の確保



漁 業

- 畦島をはじめ管内の漁業者が減少
- 定着に向けた就業環境の整備

- ▶ 漁業就業支援フェア等の実施
- ▶ SNS※等を活用した魅力発信



林 業

- 林業従事者の高齢化・担い手減少
- 林業労働環境の情報不足・低い認知度

- ▶ 管内の高校などのPR活動の実施
- ▶ 林業体験会の実施

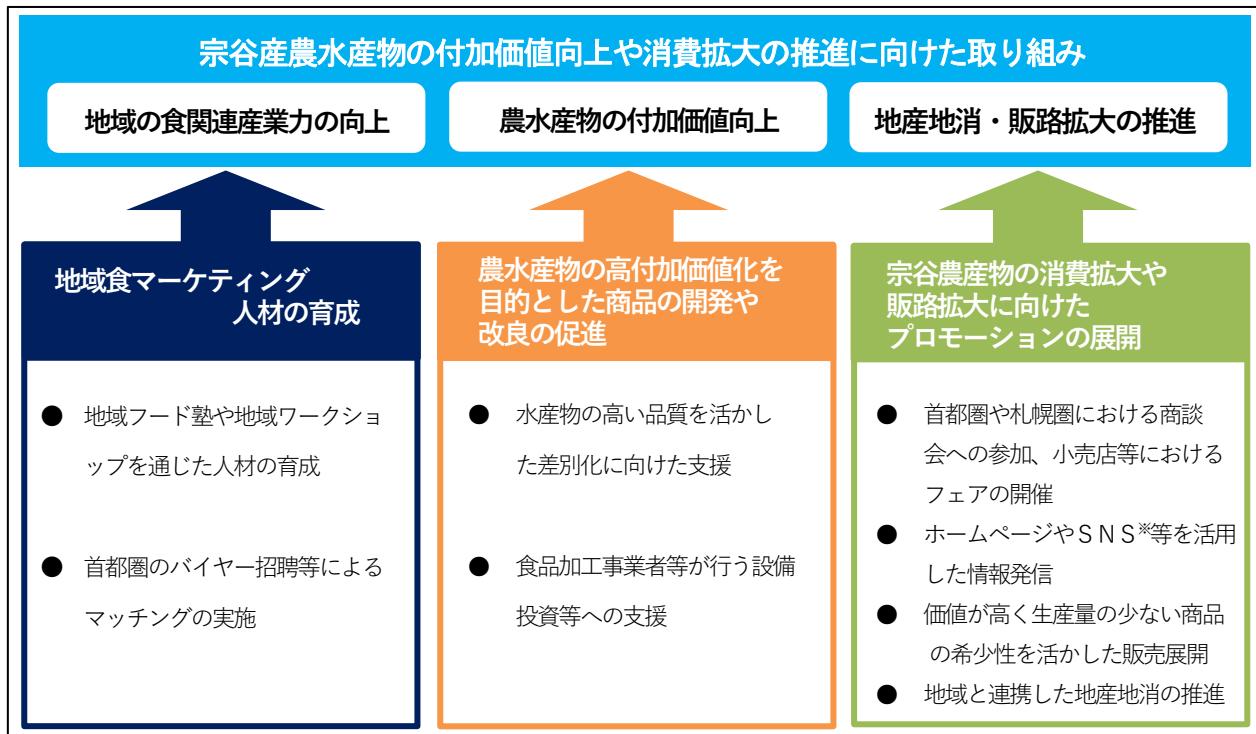


めざす姿

持続可能で活気あふれる宗谷の農林水産業に向けた多様な担い手の確保・育成

■宗谷産農水産物の付加価値向上や消費拡大の推進

- 地域における食関連産業の強化を目的とした地域食マーケティング※人材の育成
- 農水産物の高付加価値化を目的とした商品の開発や改良の促進
- 「食べて応援！」宗谷農水産物の消費拡大や販路開拓に向けたプロモーションの展開



関連する主な基盤整備

- 高規格道路の整備
- 物流ネットワーク形成のための道路網の整備
- 農産物の安定生産の基盤となる農地や農業用施設の整備
- 農産物流通の合理化などのための農道の整備
- 農地及び農業用施設の機能回復や災害を防止するための施設の整備
- 水産物供給基地としての漁港・漁場づくり
- 生活環境の向上など快適で住みよい農村漁村づくり
- 健全な森林の整備と保全の推進

関連するSDGsの目標



自然の恵みを享受 宗谷共生プロジェクト

【推進エリア】宗谷地域

【主な実施主体】国・道・市町村・民間

目的

宗谷地域は、「利尻礼文サロベツ国立公園」、「北オホーツク道立自然公園」の2つの自然公園があり、ラムサール条約湿地※として、クッチャロ湖、サロベツ原野が登録されるなど、魅力ある自然環境を有するとともに、広大な草地や日本海とオホーツク海の恵み、地域内の7割を占める森林などを活かした1次産業が展開されています。

また、管内は風況の良さを活かした風力発電をはじめ、新エネルギー※の導入が進められるなど、ゼロカーボン北海道※の実現に貢献できる潜在力を有する地域であるとともに、2023年にはATWS※北海道・日本のポストサミット・アドベンチャー※が北宗谷地域で開催されるなど、その自然景観は観光資源として国内外から高く注目を集めています。

一方で、エゾシカやトド・アザラシといった野生鳥獣・海獣による深刻な農林水産被害や高山植物の盗掘、開発やオーバーツーリズム※に伴う環境への負荷などが課題とされており、豊かな自然の恵みを享受し、地域の持続的な発展につなげるためには、野生鳥獣・海獣の個体数の適正な管理に努めるとともに、「植えて育てて、伐って使って、また植える」森林資源の循環利用※を推進するほか、自然を慈しむ心を育み、環境配慮行動を促進するといった取組など、自然と共生した地域づくりを進める必要があります。

施策展開

- 【施策】 ■ 「ゼロカーボン北海道」の推進
■ 自然の魅力を活かしたアドベンチャートラベル※の推進
■ 自然・環境に配慮した地域づくり
■ 野生鳥獣・海獣による被害防止対策の推進

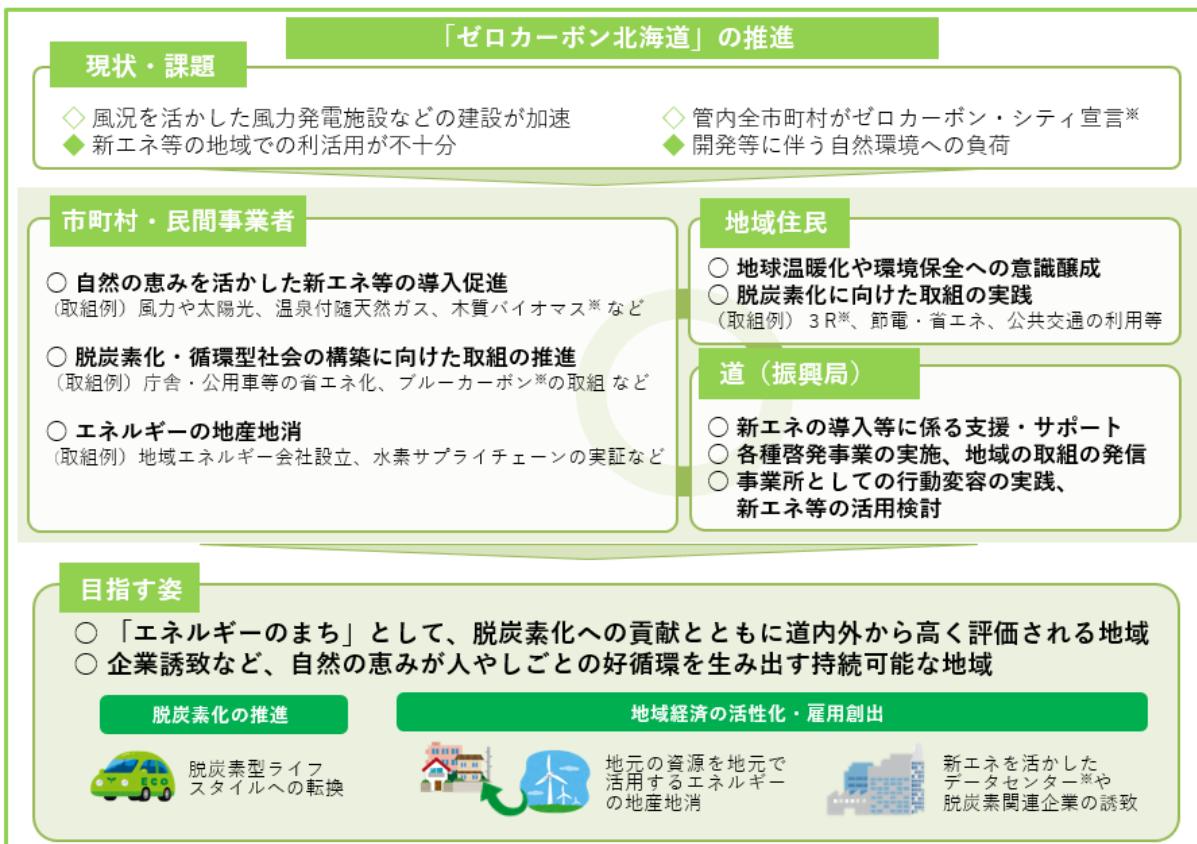
〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI※）〉

○新エネルギー発電設備容量※（万kw）	14.6万kw（R3）→ 27.2万kw（R11）
○観光入込客数	183万人（R5）→ 226万人（R11）
○造林面積	1,264ha（H30～R4 計）→ 2,871 ha（R7～R11 計）
○自然公園利用者数	60.7万人（R4）→ 73.7万人（R11）
○エゾシカ捕獲数	7,616頭（R4）→ 9,200頭（R11）

<施策毎の主な取組方向>

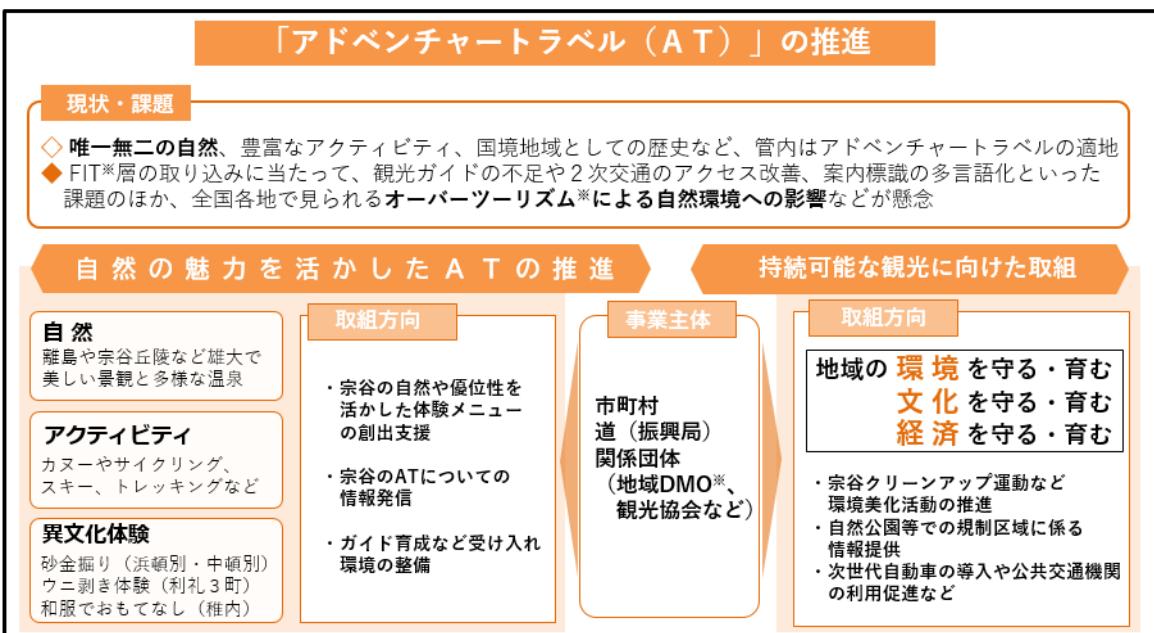
■ 「ゼロカーボン北海道※」の推進

- 自然の恵みを活かした新エネ※等の導入促進
- 地域が一体となった脱炭素化※・循環型社会※の構築に向けた取組の実践
- エネルギーの地産地消



■ 自然の魅力を活かしたアドベンチャートラベル※の推進

- 多様な自然・アクティビティの魅力の発信
- 旅行者の環境配慮行動の促進など、サステナブルツーリズム※の実践



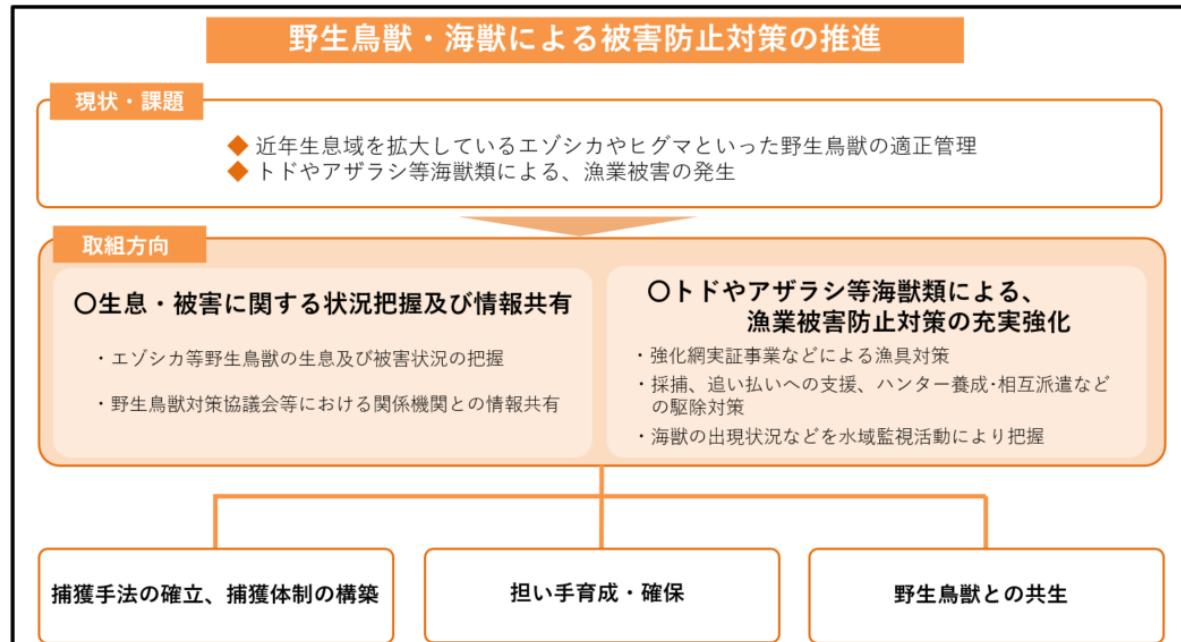
■ 自然・環境に配慮した地域づくり

- 人と自然との共生を目指した協議会への参加など自然再生の取組
- 高山植物の保護等を通じた自然環境の保全に向けた取組
- 自然公園の利用を通じた自然環境の理解を深める取組
- 地域の特性に応じた森林の整備及び保全の推進
- 道民の協働による森林づくりの推進



■ 野生鳥獣・海獣による被害防止対策の推進

- エゾシカやヒグマ等野生鳥獣の生息・被害に関する状況の把握及び野生鳥獣対策協議会などによる情報共有
- トドやアザラシ等海獣類による、漁業被害防止対策の充実強化



関連する主な基盤整備

- 健全な森林の整備と保全の促進
- 治山施設の整備
- 自然豊かな水辺環境の整備・保全
- 自然公園における利用施設の整備など自然とのふれあいの場づくり

関連するSDGsの目標



多様な人材で未来を拓く 宗谷創生プロジェクト

【推進エリア】宗谷地域

【主な実施主体】国・道・市町村・民間

目的

宗谷管内は、少子高齢化の進行とともに、進学や就職を契機とした若年層の都市部への流出など、人口減少が依然続いており、地域経済の縮小や、酪農や漁業、観光業といった基幹産業の担い手不足は深刻さを増しています。

一方で、近年、アジア諸国からの技能実習※生をはじめとした外国人材や、都市部から志を持って当地に移り住み、地域協力活動を行う地域おこし協力隊※などが、担い手として台頭しており、地域における活力維持の一翼を担うものと期待されています。

雄大な自然や豊かな食、新エネルギー※の宝庫である宗谷地域が持続的に発展するためには、多様な主体が手を携え、住民ひとり一人が地域に誇りや愛着を持ちながら、宗谷の創生に一丸となって取り組んでいくことが重要です。

のことから、喫緊の課題である人材確保対策はもとより、次代を担う子ども達のシビックプライド※の醸成、移住者の定着支援や多文化共生※に向けた環境整備など、全ての住民が共に暮らし、支え合う地域社会の実現を目指します。

さらに、ふるさと納税や国際交流などを通じた地域との繋がり、いわゆる関係人口※の創出・拡大を図るなど、地域の活性化に向けた取組の裾野を拡大します。

なお、地理的・歴史的な背景から長きにわたって友好親善、経済交流を積み重ねてきたロシア・サハリン州との交流に関しては、引き続き国際情勢を注視しつつ、地域の皆様とともに、今後の展開を検討してまいります。

施策展開

- 【施策】
- 人材確保対策の強化
 - 子どもたちのシビックプライドの醸成
 - 多様な人材との連携・共生のまちづくり
 - 関係人口の創出・拡大

〈プロジェクトの重要業績評価指標（KPI※）〉

○地域おこし協力隊員数	41人 (R5)	→	50人 (R11)
○外国人居住者数	1,239人 (R5)	→	1,548人 (R11)

多様な人材で未来を拓く 宗谷創生プロジェクト

現状・課題

- ◆人口減少や担い手不足の更なる進行
- ◆進学・就職を契機とした若年層の流出
- ◆食や観光、新エネ※などに高いポテンシャル
- ◆技能実習※生や地域おこし協力隊※など多様な人材が躍進

喫緊の課題への対応

人材確保対策の強化

○分野横断的な取組

- ・宗谷地域雇用ネットワーク会議NEXT
- ・新卒者を対象とした合同企業説明会
- ・SNS※を活用した企業情報等の発信など

○基幹産業の担い手確保対策(再掲)

- ・漁師道(漁業)、漁業就業支援フェア、農業系大学でのプロモーションなど

中長期的視点からの取組

子ども達のシビックプライド※の醸成

→将来的な定住・Uターンへ

地域の

- 仕事を知る
 - ・お仕事体験、出前授業など
- 可能性を学ぶ
 - ・新エネ施設見学、カーリング体験
- 暮らしを共に守る
 - ・1日防災学校、乗りもの体験教室

宗谷の
創生

新たな担い手として多様な人材から選ばれ、多くの人から応援される地域へ

○地域おこし協力隊

- ・協力隊ネットワークの構築、起業サポート等の定着支援など

○外国人材

- ・日本語教室開催や相談体制の構築、防災訓練など

○関係・交流人口※

- ・ふるさと納税や国際交流等の推進
→地方創生の取組の裾野拡大

<施策毎の主な取組方向>

■ 人材確保対策の強化

- 人材不足解消に向けた分野横断的な取組の実施
- 地域が連携した基幹産業の担い手対策の実施(再掲)

[取組例]

「宗谷地域雇用ネットワーク NEXT」の取組



高校生等の地元就職や離職防止、Uターン※促進などの取組強化、推進

SNS※を活用した企業情報等の発信



「20歳の集い(稚内市)」でのPR活動↑

若年者のUターン就職を促進するため、SNSを活用し企業情報や地域情報を発信

■ 子どもたちのシビックプライド※の醸成

○将来的な定住・Uターンを見据えた地域の「しごと」や「魅力」の理解促進

○地域社会の一員として、「地域を共に守る、大切にする」気持ちの醸成

〔取組例〕

地域の仕事を知る



漁業士会「出前授業」



キッズマーシャラー体験

地域の可能性を学ぶ



新エネ※施設見学会



金メダリストによるカーリング教室

地域の暮らしを共に守る



1日防災学校



乗りもの体験教室

■ 多様な人材との連携・共生のまちづくり

○地域おこし協力隊※の受入促進、地域への定着支援

○外国人にも暮らしやすい多文化共生※の実現に向けた環境整備

〔取組例〕

地域おこし協力隊研修会の開催



業種・地域の枠を超えた
連携の輪を広げ、新たな
展開や取組につなげる

外国人向け防災研修の開催



外国人を対象に災害発生
時に適切な行動を取るた
めの防災研修を実施

■ 関係人口※の創出・拡大

○ふるさと納税の適正運用及び制度を活用した地域の魅力発信

○よそ者による「気づき」や地域への活力導入など、外部人材の受入促進

○地方創生に係る取組の裾野拡大に向けた国際交流や自治体間交流の推進

関連する主な基盤整備

- 安心で快適な旅ができる交通ネットワークの整備
- 高規格道路の整備
- 物流ネットワーク形成のための道路網の整備

関連するSDGsの目標

